

## 今日は私が委員長

平成十年度 五年 女兒

「これから放送委員会を始めます。」

私は、ドキドキしながらやつの思いでこの一言を言いました。私はふだん書記をしているのですが、委員長のゆいさんが、陸上競技会出場のため、種目練習をしなければならなくなり、放送委員会に出席できなくなったので、副委員長が、ゆいさんの代理を務めることになったのです。最初に、今日話し合わなければならないことについて担当の三千夫先生から説明を受けました。今日話し合うことは十月半ばごろに放送委員会で企画している朗読の予定をたてること、もう一つは、お昼の放送のなぞなぞを読む時に、二回くり返して読んでいるかを、もう一度くり返してみようということでした。どちらを先に話し合っても良さそうだったので、私は早く話し合いの終わりそうな、なぞなぞの方から話し合おうと思いました。最初に、

「月曜日と金曜日のお昼の放送をしている皆さん、なぞなぞの問題を読む時に、二回くり返して読んでいますか。」と聞いてみました。すると、あちこちから

「二回くり返して読んでねけよ。」

「あつ、忘れてた！」

「二回読むの？そんなこと、まったく考えてなかったなあ。」などと、反省の声が聞こえてきました。皆の声を聞きながら、私もそういえば、

「月曜日のお昼の放送担当だけど問題を二回くり返して読んでいなかったなあ。聞く人がわかりにくかっただろうなあ。この次からは気をつけなくてはいけないなあ。」と頭の中が反省でいっぱいになりました。そして、なぞなぞのことについては皆で反省し合い、わかりやすいように二回きちんとくり返して読むように決めました。

次に話し合うことは、放送委員会で企画している朗読の予定をたてることです。私は、

「朗読では、放送委員会がお話を読むことになりましたが、そのお話は放送委員で作りますか？それとも図書室にある本を読みますか？意見があつたら手をあげてください。」と言いました。けれど、しーんとしてしまって、まったく意見が出ませんでした。なんだか、急に静かになってしまったので、「私の言い方が変だったのかな？それとも考えている途中だから手があがらないのかなあ？」そんなこ

とを考えながら私は、もう一度、

「何かありませんか。」と聞いてみました。しばらくすると、六年生の人が二人手をあげて発表してくれました。一人の人の意見は、

「お話を作った方が良いと思います。なぜなら、図書室にある本は、皆が読んでいる本ばかりなので本の内容を皆が知っているからです。」ということでした。すると、そばにいた三千夫先生が、

「皆が知っている本でも、心をこめて上手に読むことも朗読では大事なことなんだぞ。」とおっしゃいました。わたしも、作ったお話の方が聞いている人に楽しんでもらえるかも知れないと聞いていた一人だったので、三千夫先生の意見をお聞きしたら、「そうだなあ。そういえば、もも太郎のお話等は、何回聞いてもあきないし、読む人が上手だとすごく楽しいなあ。」と思いました。そしてもう一人の人の意見を聞くと、

「皆が図書室の本を全部読んでいる訳ではないと思うので、図書室の本の中から皆に聞かせたい本を選んだら良いと思います。」ということでした。この問題については、いろいろと話し合ったのですが、なかなか意見がまとまりませんでした。結局、多数決で、とりあえずお話を作って

みることに決めました。三千夫先生は、

「話し合って決めたことなんだから、最後まで皆で協力してやんねばだめだぞ!」とおっしゃっていました。

終わりのあいさつが終わった時、私は今日の委員会はいつもとちがった感じでドキドキしたけど良かったとホッとした気持ちになりました。

今日のこと、いつもの自分をふり返ることもできました。いつもは何気なく委員長の話聞いていただけだったので、いざ、自分が会を進める時のおずかしさが分かり、とても勉強になりました。そして、あらためて、ゆいさんはすごいなあ。私も、ゆいさんみたいになりたいなあと思いました。

次の週、委員会での委員長のゆいさんの顔を見たら、一段とかがやいて見えました。私も、だれが見ても「かがやいている放送委員長」に、なりたいです。